

復興に向けた科学・技術のあり方

—環境及びジェンダーの視点を中心として—

後藤俊夫

(日本学術会議第三部会員、中部大学)

1. 東日本大震災に対する日本学術会議からの 緊急提言等

(日本学術会議HP参照)

- ・幹事会声明「東北・関東大震災とその後の原子力発電所事故について」
- ・「今、われわれにできることは何か？」に関する緊急報告
- ・東日本大震災に対応する第一次緊急提言
- ・第二次緊急提言「福島第一原子力発電所事故後の放射線量調査の必要性について」
- ・第三次緊急提言「東日本大震災被災者救援・被災地域復興のために」

(続き)

- ・第四次緊急提言 「震災廃棄物対策と環境影響防止に関する緊急提言」
- ・第五次緊急提言 「福島第一原子力発電所事故対策等へのロボット技術の活用について」
- ・第六次緊急提言 「救済・支援・復興に男女共同参画の視点を」
- ・東京電力福島第一原子力発電所事故に関する日本学術会議から海外アカデミーへの現状報告

第六次緊急提言 「救済・支援・復興に男女共同参画の視点を」(要約)

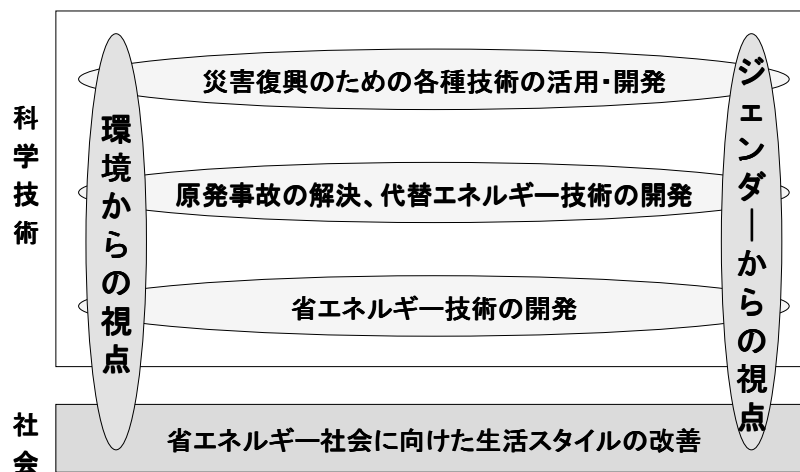
日本の社会・経済システムの課題として、男女共同参画やジェンダーに敏感な視点から、被災地域の救済・支援・復興を進めるために、以下のことを緊急に提言する。

1. 政府、自治体等において、救済・支援・復興等の意思決定や運営をおこなう機関に、男女共同参画を徹底すること。
2. 物的支援に劣らず重要な対人ケアの活動において、医療職・介護職・保育職、学校教諭や公務員など、ケアラーのケアを図ること。

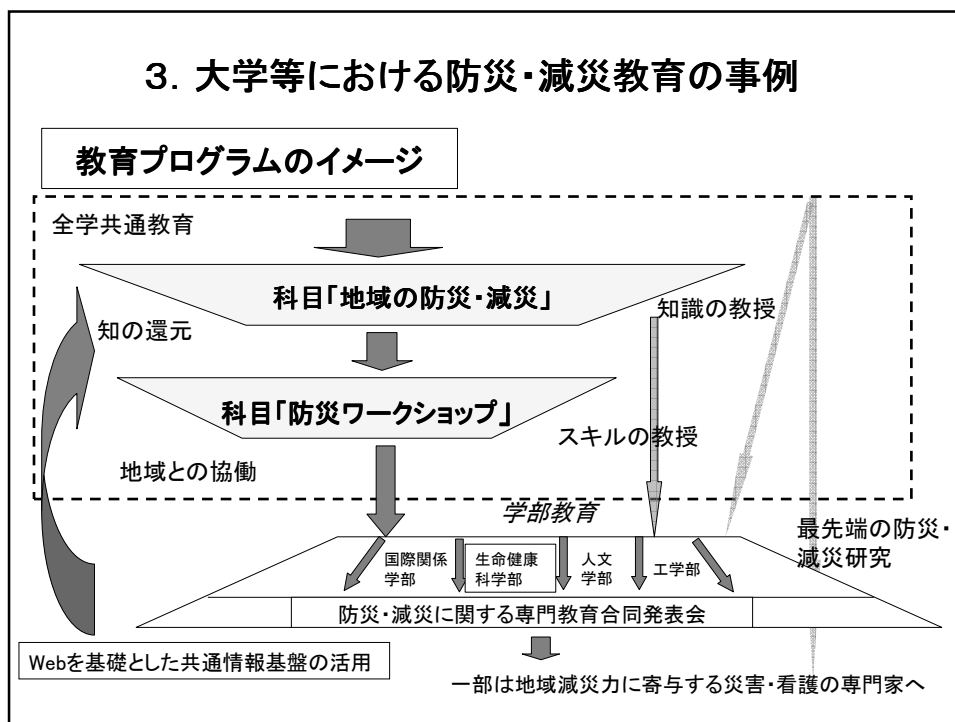
(続き)

3. 言語をはじめ種々の情報弱者が存在することを念頭に置き、多様なニーズを持つ人々に対してきめ細かい情報収集と提供に努めること。
4. 女性や子どもに対する暴力の発生を防ぐために、警察官、自衛官、警備員等においても女性の配置を図り、女性・子ども等に対する全体的な支援体制を現状に適した形で強化すること。
5. ジェンダーに敏感な視点による当事者参加型などの実態調査をはじめ、復興過程における男女共同参画の実現に資する調査研究を振興すること。

2. 復興に向けた科学・技術の役割と考慮すべき視点



3. 大学等における防災・減災教育の事例



講義科目「地域の防災・減災」の内容

災害時に役立つ知識の教授

	授業内容	
第1週	世界の地震災害、風水害および中部地方の災害の課題	世界および地域の災害を知る
第2週	中部地方の地域的特色、自然環境と過去の災害の歴史	
第3週	地震のメカニズム、予知	災害のメカニズム、対策を知る
第4週	地震災害の事例および対策	
第5週	洪水、豪雨による災害のメカニズムと事例・対策	
第6週	津波、高潮による災害のメカニズムと事例・対策	事前対策に役立つハザードマップを知る
第7週	災害に対する地域・住宅の対策	
第8週	中間試験	
第9週	ハザードマップについて	災害看護、避難所運営を知る
第10週	被災時の看護のあり方	
第11週	避難所運営のあり方および被災後のこころのケア	
第12週	災害情報と個人的対応	災害時の個人的、地域的対応を知る
第13週	地域の活動	
第14週	グループ発表会の準備	
第15週	グループ発表会	